

第15回よむゾーくん大賞

入賞作品集

2022年に読んだ本で、「感動した!」、「大好き!」、「これはいい!」など、藤枝市内の学生がおすすめしたい本を文章と絵で紹介する「作品」を募集しました。入賞された作品をご紹介します。

市長賞 小学生低学年部門

高洲南小学校 1年生 中村 悠暉 さん

「ウミガメものがたり」

童心社

鈴木 まもる／作・絵



この本の主人公はメスのウミガメです。このものがたりは、タマゴが大人にせいちょうするまでがかいてあります。この本をよんでぼくは、おかあさんガメがたくさん子どもをうんでも、ほとんどの、子ガメは海にいけないところが、かんどうしました。ウミガメのすごいところは、ふるりの日本から10000キロはなれたカリフォルニアの海までいくことです。さいきんプラスチックゴミをすてる人が多いので、みなさんも気をつけてください。

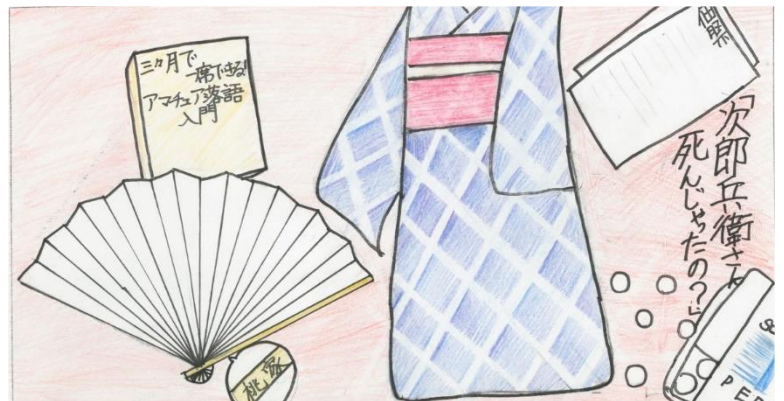
市長賞 小学生高学年部門

藤枝中央小学校 6年生 桑原 幸音 さん

「君の嘘と、やさしい死神」

ポプラ社

青谷 真未／著



幼少期のトラウマから「嫌だ」と言えない高校生、百瀬太郎。三ヶ月後に控えた文化祭準備で多忙な日々を送る百瀬の前に現れたのは落語がしたい同級生、美園玲。百瀬を振り回す玲だったが、実はとある嘘をついていた。私は、いつも強気な玲から垣間みえる本音に胸が締めつけられる気もちになりました。特に落語の演目を佃祭にした理由を知ったときは、玲の自分についての様々な葛藤が表れていたことに驚きました。ぜひ、読んでみてください。

市長賞

中学生部門

西益津中学校 1年生 渡水 ルイ さん

「収容所(ラーゲリ)から来た遺書」

文藝春秋

辺見 じゅん／著



第二次世界大戦後、異国の収容所に60万人が送られ、帰国まで11年という地獄を生きた人達の実話。零下40℃の極寒で強制労働を強いられ、凍傷や飢えで死ぬ人が多くいた中、山本幡男さんという実在した人物は日本で待つ家族の再会を願い、ダモイ(帰国)という希望、生きるのを諦めない信念、仲間を思い励まし支え合いました。帰国叶わず病気で死んでしまうのですが、仲間が命懸けで山本幡男さんの遺書を家族に届ける方法に感動です。

市長賞

高校生部門

藤枝西高校 1年生 川口 優花 さん

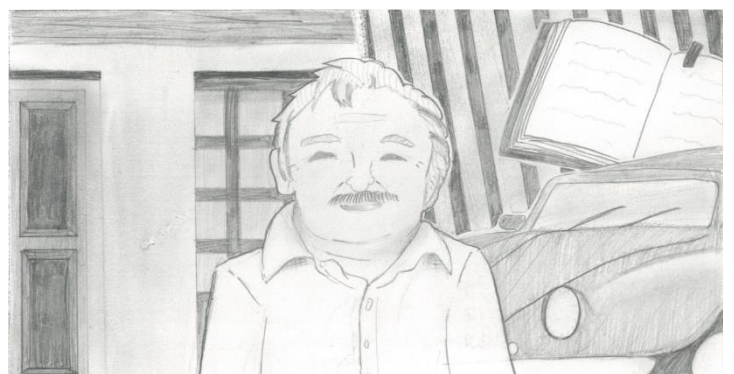
「世界でいちばん貧しい大統領からきみへ」

汐文社

ホセ・ムヒカ／著

くさば よしみ／編

田口 実千代／絵



私が紹介したい本は「世界でいちばん貧しい大統領からきみへ」という本です。この本はウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカさんのスピーチを元にした本です。本文には「貧乏とは、無限に多くを必要とし、もっと欲しがることである」と書いてあります。持っているお金や物が少ないことを貧乏というのではない、と新たに学ぶことができました。今世界では、貧富の差が激しくなっている問題があります。この本を読んで、もう一度世界について考えてほしいです。

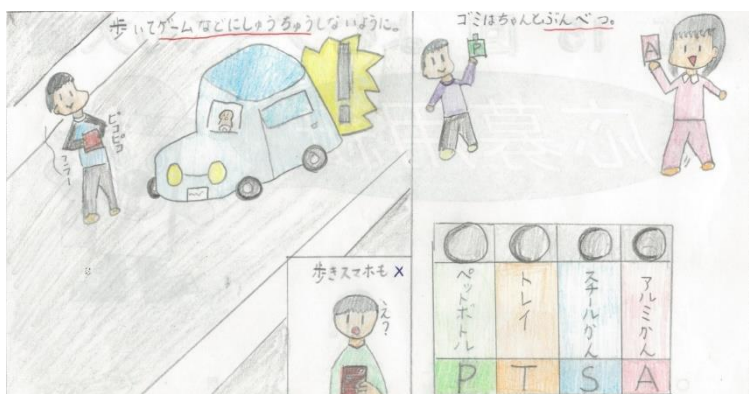
教育長賞 小学生低学年部門

青島東小学校 3年生 横田 優杏 さん

「ルールとマナー」

旺文社

関 和之／マンガ・イラスト



「学校では教えてくれない大切なこと」は40シリーズあって、その中の「ルールとマナー」について紹介します。自分のことや相手のことを知る大切さと世の中のさまざまな仕組みがマンガ形式で楽しく描かれています。ルールとマナーがどうして必要なのか、ルールとマナーを守ると安全に生活できる。相手を思いやる気持ちが生まれるなど読み終わって、ルールとマナーをチェックしてみると「考えるって楽しい。」「わかるってうれしい。」と思うようになります。

教育長賞 小学生高学年部門

青島小学校 6年生 田崎 茜 さん

「ラベンダーとソプラノ」

岩崎書店

額賀 滯／作

いつか／絵



「みんなで頑張る」とはどういうことでしょうか。ある目標を達成することだけに必死になり、まわりのことが見えなくなる。これは本当に、「みんな」で頑張っているといえるのでしょうか。この本は、人それぞれの「頑張り方」について、主人公の真子たちが所属する、小学校の合唱クラブでのできごとを通して考えさせてくれる本です。私は、真子が元のような合唱をするために行動を起こし、成長していくところが好きです。ぜひ読んでみてください。

教育長賞 中学生部門

瀬戸谷中学校 1年生 古谷 希 さん

「あの花が咲く丘で、
君とまた出会えたら。」

スターツ出版

汐見 夏衛／著



毎年、八月頃は戦争の報道が多い。怖いから見たくないと思うあなたへ。この本を読んで私も変わりました。昔、日本で起きた戦争、世界で今起きている戦争なんて、私には関係ないと思っていました。でも、この本を読み始めると戦争時代に来てしまった百合に共感してしまいました。そこで百合が経験したことは、まるで自分が体験したかのように感じるほどです。読み終わった頃には戦争に対して涙が止まりません。ぜひ読んで下さい。

教育長賞 高校生部門

藤枝西高校 1年生 増田 倫奈 さん

「雨の降る日は学校に行かない」

集英社

相沢 沙呼／著



「なぜ学校に行かなくてはならないのか」みなさんも一度は疑問に思ったことがあると思います。私が紹介する本は、学校生活に息苦しさを感じている女子中学生を主人公とした短編集です。等身大の私たちだからこそ共感できる複雑な人間関係、友達間の地位、いじめ。決してハッピーエンドではないけれど、毎回少しの希望が見える。自分が主人公ならどう向き合うのか、クラスメイトなら何ができるのか、ぜひ一度この本を読んで考えてみて下さい。

図書館協議会長賞 小学生低学年部門

青島小学校 3年生 竹内 結那 さん

「りんごかもしれない」

ブロンズ新社

ヨシタケ シンスケ／作



この本は、「かもしれない。」と、そうぞうをふくらませるお話です。おとこのこが、学校からかえってきたら、テーブルの上にりんごがおいてありました。「このりんごの中身は何だろう。もしかしたら…」と、おとこのこが言って、あんなふうなのかもしれない、こんななのかもしれない。と、考えはじめました。そのおとこのこが考えたのが、「何かのたまごかもしれない。」など、とてもおもしろいのでぜひ読んでみてください。

図書館協議会長賞 小学生高学年部門

藤枝中央小学校 6年生 勝山 優稟 さん

「お笑い芸人と学ぶ13歳からのSDGs」

くもん出版

たかまつ なな／著

佐藤 真久／監修



この本は、たかまつななさんが実際に体験したことをもとに、SDGsについてくわしく書かれています。例えば、目標五ジェンダー平等を実現しようというページには、自分が「女なのに芸人になるなんて。」と言われたことがあるそうです。これからはそんなことがないように、解決策も書かれています。このような、少しのことから、世界につながるすることができます。みなさんもぜひ、SDGsのことを知ってみませんか？

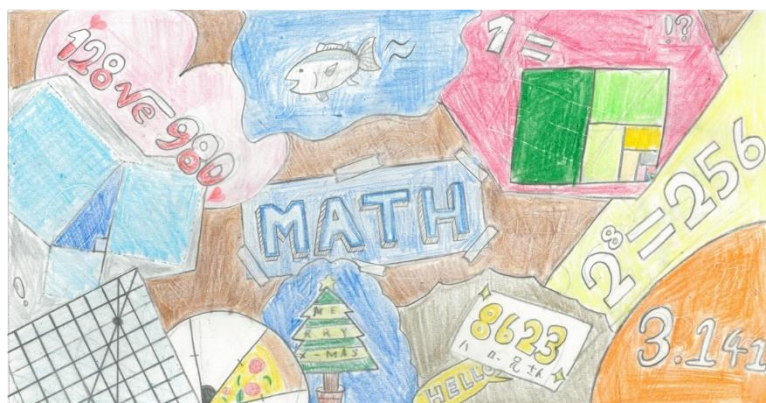
図書館協議会長賞 中学生部門

高洲中学校 1年生 工藤 莉美 さん

「笑う数学」

KADOKAWA

日本お笑い数学協会／著



「数学」と聞いて、どんなイメージを思い浮かべるだろうか。難しいと思う人も多いのではないか。この本には、ユニークな要素が盛り込まれた、百個もの数学ネタがまとめられている。例えば、マグロの数え方の状態による変化や、年齢別年齢の褒め方などがある。中には、試験にも使える、実用的なものもある。読み終わる頃には、数学が少しでも好きになれる本だと思う。あなたも、この本を手に取り、数学の扉を開いてみてはいかがだろうか。

図書館協議会長賞 高校生部門

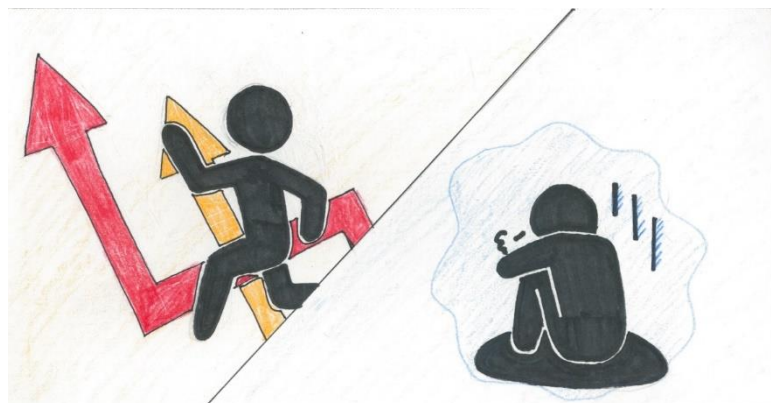
藤枝西高校 1年生 野村 悠莉 さん

「一瞬で自分を変える言葉」

KADOKAWA

清水 康一郎／著

セミナーズ編集部／訳



この本は、私が中学3年生の時に父からおすすめされ読み始めました。アンソニー・ロビンズという作家の名言集です。本の名前の通り、ネガティブな自分の、世界の見方を変えてくれたり、あきらめそうな時、励ましてくれたりします。名言が七十五個と多いですが、一つひとつが大切に、心をつかまれる言葉ばかりです。私もこの本を読んだから、あきらめそうな時何度も救われました。ぜひ自分の人生と照らし合わせて読んでみてください。